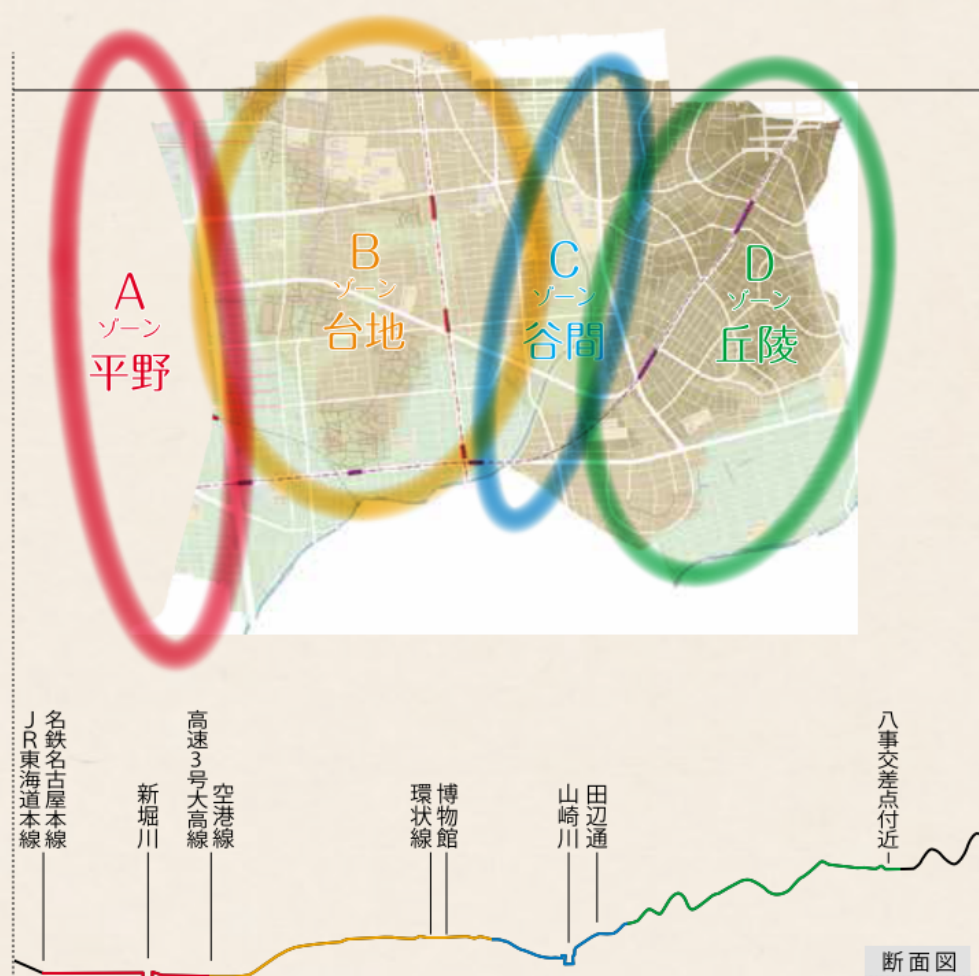


瑞穂区の近代

— 語り継ぎたい 四つの街の物語 —



瑞穂区の魅力を考える会

目次



はじめに 1



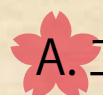
瑞穂区の特徴 2



瑞穂区の近代 4



四つの街の物語 9



A. 工業団地の先駆け



B. 高等教育の拠点



C. 山崎川沿いの名所



D. ユニークな山林都市



おわりに 27



瑞穂区の地図 明治・大正・昭和・平成 28



参考資料

はじめに

瑞穂区は地味な区だと思われてはいないでしょうか。私自身、一昔前までは、何があるの?と聞かれても、「山崎川の桜」くらいしか頭に浮かびませんでした。

しかし、住んでいる人々が、自分の住んでいる所に誇りを持つことは大切です。そのことが、区の魅力になり、住んでいる人の自信になります。このため瑞穂区(役所)では、瑞穂区の魅力を探しだし、発信する取り組みを始めました。

もちろん、瑞穂区には優れた歴史や文化が沢山あります。ところがそれらの多くは、点々と分散していたり、広い視点から評価されていないものが多いのではないのでしょうか。

そこで、私たちは、瑞穂区の特徴を分析し、その魅力のポイントは、瑞穂区が開発されてきた明治以降の「近代」にあるのではないかと考えました。そして絞り込んで調べてみると、そこには、全国的に見ても面白い歴史と、その裏に隠れた物語を見つけることができました。

この冊子は、それらを、分かりやすく説明するためにまとめたものです。瑞穂区にお住まいの方はもちろん、名古屋の街に関心を持たれる方にも、ご一読いただければ幸いです。

瑞穂区の魅力を考える会 池田 誠一



瑞穂区の特徴

瑞穂区にはどんな特徴があるのでしょうか。ここでは、その地形やその土地の利用状況などから、まず魅力のありそうなところを探してみたいと思います。

地形

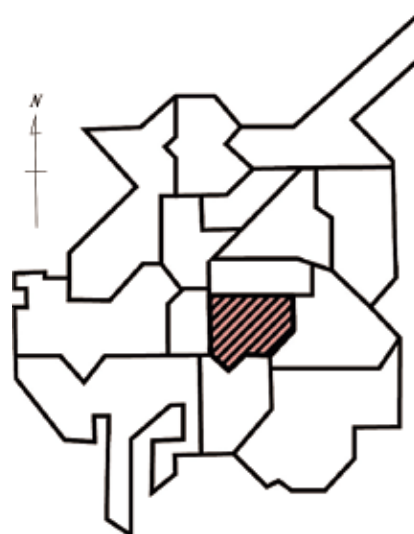
瑞穂区は、名古屋市のほぼ真ん中、やや南東寄りに位置します。平たんなイメージのある名古屋にあって、区の中に、平野から台地を経て丘陵まで、変化のある地形が一つの特徴です。

区の西側は、沖積平野で、西の境は新堀川という運河です。この運河は、明治時代の終わり頃、付近を屈曲して流れていた精進川を改修して運河にしたものです。

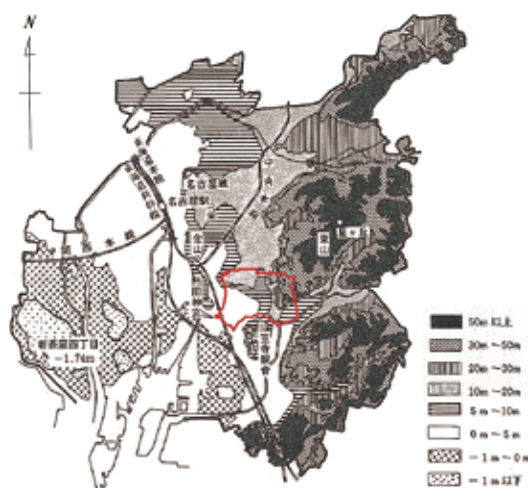
平野の東側から区の中央部にかけてはやや高い熱田層の洪積台地で、瑞穂台地とも呼ばれます。その上部は平たんで、東側は山崎川の谷間に向けて下っています。

山崎川は、水源を東山公園付近に持つ小河川で、区の中央部を南北に流れたあと、南区、港区を経て伊勢湾にそそいでいます。

川から東側は、八事層の凹凸の多い洪積台地で、八事丘陵と呼ばれ、標高は20～40m位です。

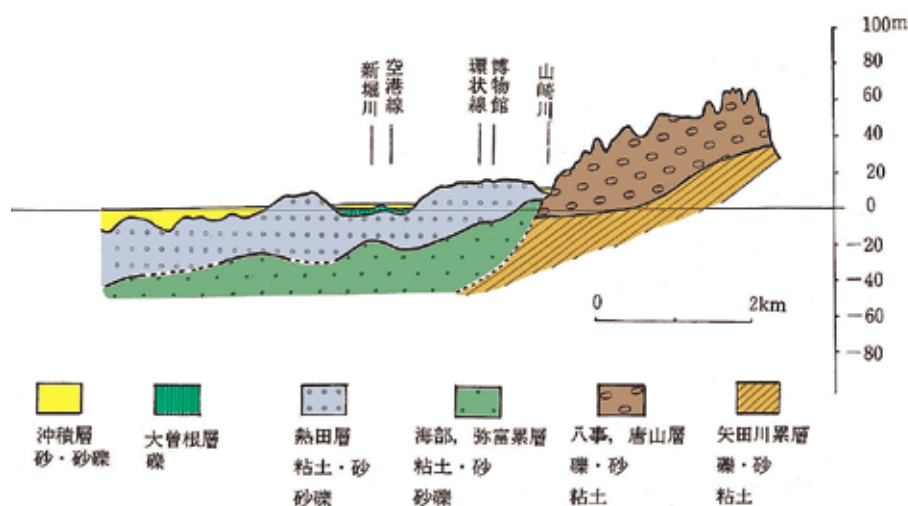


瑞穂区は名古屋市のほぼ中央



名古屋市の地形と瑞穂区

瑞穂区は、西から東へ緩やかに上っている地形で、おおよそ平野部(A)、台地部(B)、谷間部(C)、丘陵部(D)、に分けることができます。瑞穂区は、このようにとても変化に富んだ地形が一つの特徴です。



瑞穂区内東西の地質断面

土地利用

以上のような変化ある地形は、現在、どのように利用されているのでしょうか。西から東に見てみましょう。

西側の平野部は大きな工場が点在しています。今は住宅や店舗等になっている所も、元は、多くは工場だったと考えられ、古い時代から都心に近い工場街が形成されていたとみることができます。

その東は、登り坂になり、住宅街ですが、面白いのは幹線道路沿いではなく、そこから入る東西方向に商店街が何本もあり、並んでいるところもあります。

その東の台地部は、戦災を免れたところも多く、密集した住宅地になって、坂の上の郡道に続きます。この一帯は、西側の工場の従業員の住宅も多かったことでしょう。

上りきった郡道から東は瑞穂台地上の平坦な地形になり、住宅地が広い環状線を越えて続きます。戦災を免れた住宅の中には、小さな洋館の付いたハイカラな家があります。そして、この台地上は、高校や大学が目につく学生の街です。

東に台地を通り過ぎると、山崎川の谷間部に向かって下りになり、住宅も落ち着いた雰囲気のあるものがあります。

山崎川は、桜並木が有名で、その下流には広い総合運動公園の瑞穂公園があります。これらは区の名所といってよいでしょう。

山崎川から東は、急な坂を上って丘陵部になります。この辺りも、戦前に区画整理された所で、八事丘陵の凹凸の多い地形そのままに、道路が造られています。最近は分割が進みましたが、広い宅地も多く、緑の多い住宅地がつづきます。

以上のように、平野部から台地部、谷間部を経て丘陵部へと続く土地は、地形にあった土地利用がなされています。その開発は、多くが明治以降の、いわゆる「近代」とされる時代です。そこで、瑞穂区の「近代の歴史」をもう少し詳しく見てみましょう。



新堀川と工場地域



瑞穂ヶ丘中学校(五中跡)



山崎川と桜



坂と緑の住宅街

明治元年、新都・東京に向かう明治天皇が、瑞穂区の堀田付近で稲の収穫をご覧になりました。これが「瑞穂」という名の起こりとされ、まさにここから瑞穂区の近代が始まりました。そこで、その近代の主な出来事を、時系列で追ってみましょう。

①「瑞穂」村と愛知郡

明治9年頃、名古屋東部の19の村を6つにまとめる時、**瑞穂村**と**弥富村**が生まれました。区内にはこの他に、西の**東熱田村**も入ります。

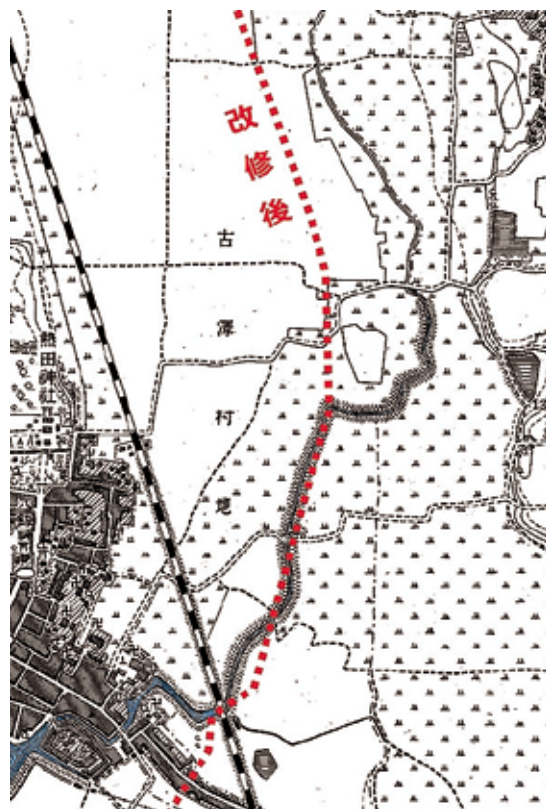
明治11年の郡区町村編制法によって、今日の瑞穂区域は**愛知郡**に属することになりました。当時の郡は、議会や役場を持ち、予算の執行権もありました。そして郡は、郡の道、**郡道**を整備したのです。区内では、①千種街道(通称「郡道」)、②平針街道(熱田駅-平針)、少し遅れて③高田街道(熱田駅-高田)などが整備されています。



区内にできた3本の郡道(大正9年)

② 運河・新堀川

西を流れる新堀川は、改修前は、覚王山付近が水源の**精進川**という屈曲した河川でした。大雨ごとに氾濫していたため、明治16年、名古屋区長の吉田禄在氏が、国や県に改修を建議しましたが実現しません。同29年には名古屋市長が市会に提案、議決されましたが、この時も資金の関係で動きませんでした。ところが同37年、熱田側の川沿いに国の大きな**軍需工場**の建設が決まり、大量の埋立土が必要になったのです。市は、その埋立土に改修の土を売却することで事業化を図り、同43年に竣工。翌年、**新堀川**と命名されました。



精進川(明治24年)

③ 五中と八高

明治40年、県立の五番目のナンバー中学・第五中学校(**五中**、現:瑞陵高校)が愛知郡に建設されることになりました。校地は郡道(千種街道)に沿う現在の名市大(山の畑校舎)の地が選ばれました。つづいて翌41年、国の第八高等学校

(八高、現:名古屋大学)が開校しました。ところが用地として、県は既設の五中の場所を提供し、五中は南に引っ越すことになったのです。

④ 耕地整理

明治末期の名古屋市の人口急増に対し、郊外部に新しい市街地が求められていました。明治41年、愛知郡長になった笹原辰太郎氏は、農地整理のための耕地整理法で、市街地づくりを始めました。大正元年、東郊耕地整理組合が設立され、区の西北部で市街地づくりが始まりました。農地の中に幅約15mの幹線道路も作られたのです。同9年、区の北部で阿由知耕地整理が始まり、同13年には中央部で瑞穂耕地整理が続き、区の西半分の市街地化が進むことになりました。

⑤ 工場の立地

東郊耕地整理組合の事業が進んだ大正の中頃、第一次大戦の好景気で、西側の新堀川沿岸に工場が立地しはじめました。大規模なものでは日本碍子(大正8年)や、愛知時計電機(同9年)がありますが、多くは木材加工工場でした。また整理区域の南にも、服部商店(同6年、紡績工場、現:興和)等の工場ができました。

⑥ 高等教育の拠点

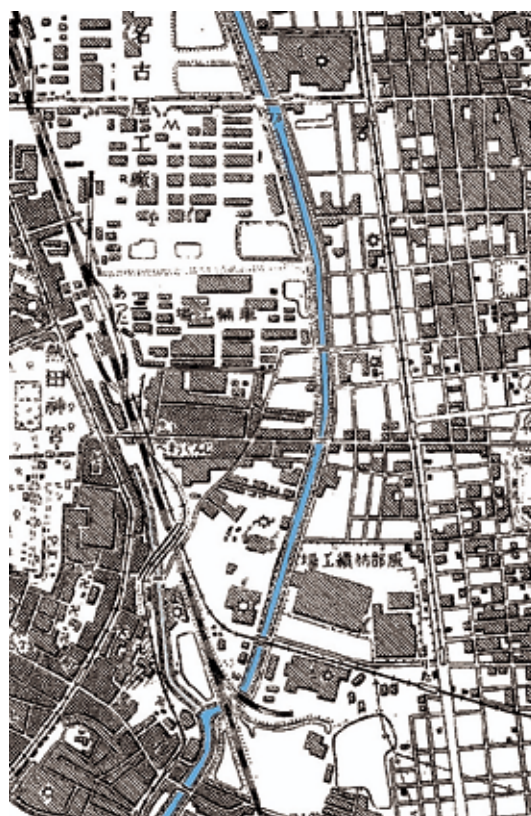
明治時代の末に八高、五中が立地した瑞穂台地では、大正時代も学校が立地することになりました。まず大正7年には八高の少し東に名古屋高等商業学校(高商、現:名大経済)の設置が決まり、同9年開校しました。今の名市大(川澄校舎、現:市大病院)の所です。また同13年には、五中の東に愛知県商業学校(県商、現:愛商)が、14年には高商の東南に享栄商業学校、(現:享栄)が移りました。瑞穂台地の上は名古屋の中高等教育の一大拠点になったのです。



八高正門



区内西部の三つの耕地整理組合



新堀川と工場群(昭和7年)

⑦ 街の変化

市街地ができると近代的な住宅も建てられ始めました。工場の立地した区西部では、東側の丘陵地に向けて従業員の住宅がつくられていきました。大正時代に出来たので、「大正町」という地名もあったといえます。

大正10年に瑞穂区域は、**名古屋市と合併**。耕地整理で出来た幹線道路には、同12年市電が牛巻と滝子まで敷設されました。14年には鶴舞の中央線高架化が完成し、その下を通過して電車は都心に直通することになったのです。東郊耕地整理組合の一带は近代的な都市に生まれ変わりつつありました。



昭和2年の市電路線

⑧「山林都市」構想

大正時代の後半、今度は東側の八事の方から開発に火が付きしました。大正12年に **八事耕地整理組合**が、同14年には南山耕地整理組合が設立されました。こちらの耕地整理は、丘陵部の地形を生かし、山林をそのままにした、「**山林都市**」という構想を実現しようとするものでした。このような考え方の土地整理は、昭和の初めに、西は上山土地区画整理組合に、南は下山、弥富の土地区画整理組合へと広がってゆきました。

⑨ 山崎川沿いに

大正13年に設立された**瑞穂耕地整理組合**は、山崎川の下流部も区域でした。昭和時代の初め、地域の魅力を創るために、大型の運動公園の誘致を考えました。ところが一組合で提供できる用地では足りません。そこで公園の位置を組合区域の東南端に移し、隣接の弥富と弥富南部の組合を誘って3組合合わせた土地を市に寄付して、瑞穂運動場の誘致に成功しました。

一方上流部は、昭和2年設立の**石川土地区画整理組合**の区域でしたが、この組合の大きな仕事は山崎川の流路変更でした。そこで新しくなった川の**両岸に桜を植えた**のです。こうして、今日の山崎川の桜並木が生まれることになりました。



区内中央部の四つの土地整理の組合

⑩ 工場の移転

昭和の初め、日本碍子の隣に日本特殊陶業(昭和11年)が設立されたほか、国道に近い区の西南部にも大きな工場が移ってきました。安井ミシン兄弟商会(昭和7年、現:ブラザー工業)を始め、エルモ社(同8年)、小林製作所(同13年、現:パロマ)などです。徐々に今日の姿が出来上がってきました。

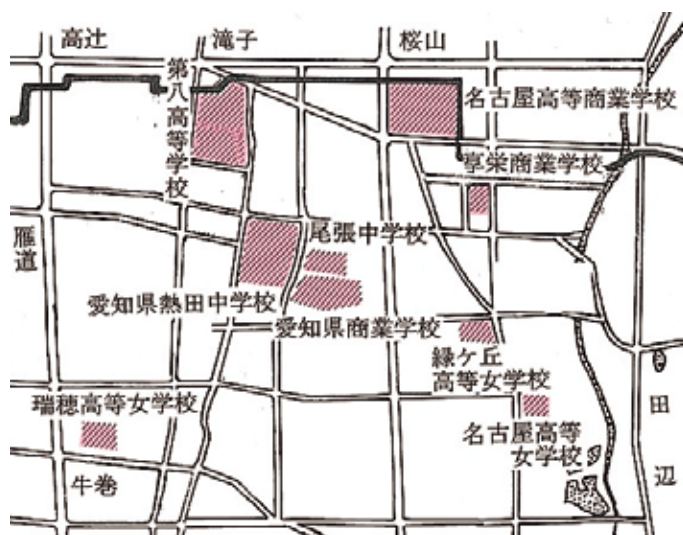


工場の移転

⑪ 私立校と進学塾

昭和時代になっても、学校の流入がつづき、名古屋高等女学校(昭和10年、現:名古屋女子大高校)、尾張中学校(同11年、現:大谷高校)、…と開校しました。

さらに、前にできていた八高、高商の中間に、同12年、高商教授だった河合逸治氏が大学進学塾(河合塾)をつくりました。こうして瑞穂台地は中・高等教育の集中が進んでいったのです。



昭和13年頃の瑞穂区域の学校

⑫ 瑞穂区の独立

このように開発の進んだ瑞穂区域でしたが、まだ昭和区の中にあって、「瑞穂区」という名の区はありませんでした。

瑞穂区ができたのは戦争中のことです。昭和19年、戦時という非常事態の中で、警察行政と地方行政の区域を一致させる必要から、昭和区から独立して瑞穂区が生まれたのです。近代といわれる時代の終わりのことでした。

以上のように、瑞穂区の近代は、運河沿いの工場地域に始まり、台地の上に住宅や中高等教育の拠点ができ、そして東の山崎川に沿って二つの名所ができました。さらにその東部の丘陵地帯に特色ある住宅地ができていったことがわかります。

このような推移から、瑞穂区の魅力をどう引き出したらよいのでしょうか。

明治 大正 昭和

瑞穂区誕生までの年表

元号	西暦	事項
明治元年	1868	明治天皇が東海道八丁駅にて稲の収穫を視察
明治2年	1869	
明治3年	1870	
明治4年	1871	名古屋県設置
明治5年	1872	名古屋県を愛知県と改称
明治6年	1872	大区小区制実施、区域(瑞穂区)は第2大区第5・6・7小区
明治7年	1873	第二十四番小学井出学校(瑞穂小学校の前身)龍泉寺に設置
明治8年	1873	第十七番小学正倫学校(弥富小学校の前身)観音寺に設置
明治9年	1874	
明治10年	1875	
明治11年	1876	瑞穂村誕生
明治12年	1877	
明治13年	1878	郡区町村編制法の制定 区域は愛知郡
明治14年	1878	弥富村・東熱田村誕生
明治15年	1879	
明治16年	1880	
明治17年	1881	
明治18年	1882	
明治19年	1883	
明治20年	1884	
明治21年	1885	
明治22年	1886	熱田一武豊間鉄道開通(国道1号熱田伝馬橋南に熱田駅設置)
明治23年	1886	名古屋株式取引所設立
明治24年	1887	
明治25年	1888	市制町村制の制定
明治26年	1889	大日本帝国憲法公布
明治27年	1889	市制施行(名古屋市長誕生)
明治28年	1889	名古屋電燈会社が市内に電灯灯火
明治29年	1890	
明治30年	1891	濃尾地震
明治31年	1892	
明治32年	1893	
明治33年	1894	日清戦争始まる(～明治28年)
明治34年	1895	
明治35年	1896	熱田湾築港工事着手(名古屋港)
明治36年	1897	
明治37年	1898	名古屋に電話が開通
明治38年	1898	名古屋電気鉄道が路面電車を開通(笹島-愛知県庁(新栄町)間)
明治39年	1898	エベネーザー・ハワードが田園都市を提唱
明治40年	1899	耕地整理法の制定
明治41年	1900	
明治42年	1901	
明治43年	1902	
明治44年	1903	レイモンド・アンウィンが、田園都市(イギリスのレッチワース)を設計
明治45年	1904	日露戦争(～明治38年)
大正元年	1904	東京砲兵工廠熱田兵器製造所設置
大正2年	1905	精進川開削工事起工式
大正3年	1905	耕地整理法の改正
大正4年	1906	区域は愛知郡呼続町大字瑞穂村・弥富村
大正5年	1906	大江玄太郎が瑞穂村大喜で、人工ふ卵業を始める
大正6年	1907	愛知県立第五中学校創立(瑞穂高等学校の前身)
大正7年	1907	名古屋瓦斯が市内にガス供給開始
大正8年	1907	名古屋市と熱田町が合併
大正9年	1907	名古屋港開港
大正10年	1908	第八高等学校創立(名古屋大学旧教養部の前身)
大正11年	1908	名古屋市区四区制実施(東・西・中・南区)
大正12年	1909	耕地整理法の全面改正
大正13年	1909	鶴舞公園開園
大正14年	1910	精進川改修工事完工
大正15年	1910	第10回関西府県連合共進会開催
大正16年	1911	精進川を新堀川と改称
大正17年	1911	名古屋市区改正調査会設置
大正18年	1912	愛知電気鉄道が電車開通(熱田伝馬町-知多郡大野間)
大正19年	1912	東郊耕地整理組合設立
大正20年	1913	運河法の制定
大正21年	1914	耕地整理法の改正
大正22年	1914	第一次世界大戦(～大正11年)
大正23年	1914	上水道給水開始
大正24年	1915	
大正25年	1916	
大正26年	1917	愛知電気鉄道が電車開通(神宮前-笠寺間)
大正27年	1918	
大正28年	1919	都市計画法(旧法)の制定
大正29年	1919	耕地整理法の改正
大正30年	1919	市街地建築物法の制定
大正31年	1919	日本ガイシ株式会社設立
大正32年	1919	名古屋市区改正委員会開催

元号	西暦	事項
大正9年	1920	都市計画名古屋地方委員会設置
大正10年	1920	黒谷了太郎・石川栄耀名古屋地方委員会に赴任
大正11年	1920	阿由知耕地整理組合設立
大正12年	1920	第1回国勢調査
大正13年	1920	名古屋高等商業学校(名古屋大学経済学部母体)
大正14年	1921	名古屋市が五大幹線道路を都市計画事業として決定
大正15年	1921	周辺16町村を名古屋市に合併(名古屋市全国第三の都市となる)
昭和元年	1921	区域が名古屋市に編入される(名古屋市南区)
昭和2年	1921	黒谷了太郎が田園都市構想の影響から山林都市を提唱
昭和3年	1921	愛知県立商業高校(瑞穂高校)瑞穂区に移転
昭和4年	1922	愛知県立第五中学校を愛知県熱田中学校へ改称
昭和5年	1922	愛知県立商業学校を愛知県商業学校へ改称
昭和6年	1922	名古屋市が都市計画区域決定
昭和7年	1923	路面電車開通(小針-牛巻間、高辻-滝子間)
昭和8年	1923	土地区画整理に関する規定の制定
昭和9年	1923	名古屋市街自動車合資会社開業(本格的市内バス)
昭和10年	1923	関東大震災
昭和11年	1923	八事耕地整理組合設立
昭和12年	1924	名古屋市が街路39路線を決定(五大幹線街路新設拡充)
昭和13年	1924	瑞穂耕地整理組合設立
昭和14年	1924	用途地域の決定
昭和15年	1924	愛知県商業高校(瑞穂高校の前身)感喜堂(旧講堂)竣工
昭和16年	1925	南山耕地整理組合設立
昭和17年	1925	雁道賑町通発展会設立
昭和18年	1925	享栄商業学校(享栄高等学校)瑞穂区に移転
昭和19年	1926	名古屋市が街路19路線追加(東部丘陵地等郊外部の幹線街路網の追加)
昭和20年	1926	名古屋市が都市計画公園を決定
昭和21年	1926	栄市場(雁道町)創設(私設小売市場)
昭和22年	1926	雁道通発展会設立
昭和23年	1927	石川土地区画整理組合設立
昭和24年	1927	路面電車開通(牛巻-堀田間)
昭和25年	1927	路面電車開通(滝子-桜山間)
昭和26年	1928	愛知電気鉄道、堀田駅新設
昭和27年	1928	大喜市場(田光町)創設(私設小売市場)
昭和28年	1929	下山土地区画整理組合設立
昭和29年	1930	名古屋市営バス開業
昭和30年	1930	中川運河竣工通水
昭和31年	1930	南浜土地区画整理組合設立
昭和32年	1931	耕地整理法、都市計画法改正
昭和33年	1931	弥富南部土地区画整理組合設立
昭和34年	1931	名古屋市民病院開設(瑞穂通)
昭和35年	1931	御劔尋常小学校開校
昭和36年	1931	上山土地区画整理組合設立
昭和37年	1932	安井ミシン兄弟商会(ブラザー)が平郷町へ工場新設
昭和38年	1932	路面電車開通(桜山-市民病院前間)
昭和39年	1933	
昭和40年	1934	市の人口100万人突破
昭和41年	1935	堀田尋常小学校開校
昭和42年	1935	愛知電気鉄道が名岐鉄道と合併、名古屋鉄道と改称
昭和43年	1935	名古屋高等女学校(名古屋女子大学高等学校)東区から汐路町に移転
昭和44年	1936	尾張高校(名古屋大谷高等学校)中区から高田町に移転
昭和45年	1936	浜新開土地区画整理組合設立
昭和46年	1936	弥富土地区画整理組合設立
昭和47年	1936	日本特殊陶業株式会社設立
昭和48年	1937	名古屋汎太平洋平和博覧会開催
昭和49年	1937	市営総合運動公園決定(瑞穂公園)
昭和50年	1937	名古屋市が10区制施行(4区に加え千種・中村・昭和・熱田・中川・港区新設)
昭和51年	1937	区域は昭和区
昭和52年	1938	パロマが現在の桃園町へ工場新設
昭和53年	1939	名古屋市が風致地区決定(瑞穂区の東部)
昭和54年	1939	汐路尋常小学校開校
昭和55年	1939	瑞穂高等女学校創立(愛知みずほ大学瑞穂高等学校)
昭和56年	1940	中根土地区画整理組合設立
昭和57年	1940	緑ヶ丘高等女学校(名古屋女子大学高等学校)創立
昭和58年	1941	路面電車開通(市民病院前-新瑞穂間)
昭和59年	1941	瑞穂公園開園
昭和60年	1941	太平洋戦争(～昭和20年)
昭和61年	1942	愛知県昭和中学校(昭和高等学校)中区から玉水町に移転
昭和62年	1942	八事南部一区土地区画整理組合設立
昭和63年	1943	
昭和64年	1944	瑞穂区誕生、名古屋市が13区制施行(10区に加え北・栄・瑞穂区新設)
昭和65年	1944	東南海地震

ABCDゾーンの内容に係る事項を年表としてまとめ、色分けをしています。